海外登山の記録

カラコルム　ラトックⅡ峰（7108m）西壁西稜（敗退）

日時：1975 年7月～8 月

メンバー：高田直樹(隊長)、林隆彦（ドクター）、他12名（京都登攀クラブ）

概要：高田は、もっぱら岩登りのみを行う先鋭的な社会人山岳クラブ京都登攀倶楽部の要請を受け、林隆彦（ドクター）、スワットマナリ・アン隊の隊員中村達（マネジャー）、文部省登山研修所での教え子浅沼健及び東京芸大山岳部 OB でカメラマンの高橋龍之介をつれ、ラトックⅡ峰におもむいた。この巨大な岩峰ともいうべき未踏峰への最初の試みが成功しなかったひとつの原因は、登攀リーダーの隊員がパキスタン入国早々、急性肝炎のため離脱を余儀なくされたことであったと考えられる。行動記録は以下の通り。

記録

7 月 5 日ビアフォ氷河左岸のバインター（4268m）に B.C を建築。

高度順化のためウズン・ブラック氷河とラトックⅡ峰西壁に続くラトック氷河（仮称）の合流点に B.C2を設け、800㌔の荷揚げを行う。

14日、ラトック氷河源頭のプラトー上 5040m に C1 を建設。ここから西稜コル左壁に鋭く切れ落ちているクーロアールにルートをとり、800mのフィックスを張る。この部分がルート中最大の難関となった。

24日、コル上5900mに ABC 建設。西稜の基部へはさらに250mのフィックスを要した。

8 月 7 日西稜基部6000mに仮 C3を設営。西稜登攀のデポ地とする。

この上部は氷と岩のミックスしたリッジをたどることになるが、傾斜がきつく、その上悪天のために厳しい登攀となった。ボルトを積極的に使用し、仮 C3 より上へはすべてフィックスした。

10日、6500mに C3 建設。ここからはまず垂直の200mのピナクルが立ちふさがり、さらに一連のオーバーハングをもつ岩稜が続いている。10日間を要してこのピナクル中央部にルートを拓き、8 月 19 日、ピナクルを越えたプラトー上6700mに C4を設けた。

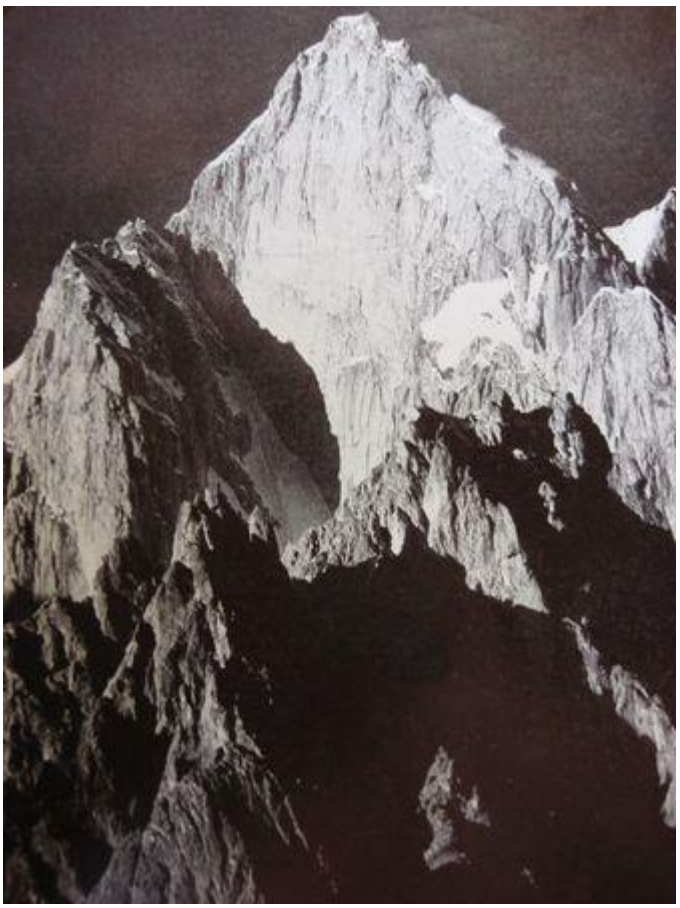
C4から頂上に向かい、ルートをのばしたが、悪天と食料不足により断念。

（付記）

この秀麗な岩の巨峰ラトックⅡは、2 年後の 1977 年、イタリア・ボローニア大学のアルツーロ・ベルガメッシ教授が率いるイタリア隊によって登られた。

彼らは、バインター・ルクパル氷河から、私たちとは反対側の南面をルートとした。この成功は、ラトック山群では最初のものである。

この頃、クウェートにいた関田は、羊と鶏を携えて単身 BC を慰問訪問した。（高田直樹記）



（ウズン・ブラック氷河から見たラトックⅡ）